



ライフドアすわ通信



ライフドアすわ 諏訪市地域医療・介護連携推進センター（平日8:30-17:00）

ホームページ <http://www.lifedoor-suwa.jp/>

住所 〒392-0027 諏訪市湖岸通り5-12-5（諏訪市医師会館1階）

TEL 0266-78-0477

FAX 0266-78-0478

メール info@lifedoor-suwa.jp

6/1
第1回多職種連携研修を開催しました
〜新型コロナウイルスの基礎知識と感染対策〜

7月に入り、新型コロナウイルス感染症の新規感染者が再び全国的に増加傾向を見せられています。気温の上昇により閉め切った屋内での活動が多くなるこの時期。あらためて日々の基本的な感染対策を徹底しましょう。



諏訪市は、5月23日、県が医療アラート及び感染警戒レベルを引き下げたことを受け、「ウイズ・コロナを意識したうえで社会経済活動との両立を重視した施策への展開」をアピールしました。

コロナ禍にあっても、今日まで医療・介護等の現場を支える多くの方々のご努力によって、途切れることなく医療やサービスが提供され続けていますが、あらためて感染対策の基本や最新情報を学ぶため、諏訪赤十字病院感染管理認定看護師の藤森洋子先生をお招きし、オンラインによる本年度第1回「多職種連携研修」を開催し、職場や自宅から医療関係者及び介護従事者など様々な職種の100名を超える皆さんにご参加いただきました。

講義では、県内や諏訪地域の感染状況、罹患後の症状、高齢者の重症化リスク、オミクロン株の特徴に関する知見、検査の特徴、濃厚接触者の定義、感染者の隔離解除基準、標準・経路別予防策、マスクやフェイスシールドの効果、環境対策やゾーニングなどについて詳しくお話しいただきました。

参加した方からは、「フェイスシールドが小さな飛沫に対し効果が無いことを初めて知った」「マニュアルは作成して終わりではなく実践して改善していくことが大切である」といった感想をいただいています。また、手指消毒のタイミング・個人防護具のつけ方と外し方、サーキュレータの効果的な使い方、咳エチケット、ゾーニングの基本パターンとその例など具体的に講義していただき、「具体的に施行できる方法を知ったことで活用できる」との声もいただきました。中でも一番多かったのは「日々行っている基本的な感染対策がとても重要で続けるべきである」との感想が寄せられました。

ライフドアすわでは、開設以来医療・介護の当事者が、領域や所属を越えて出会い、協働に必要な視点や知識を得るための気軽な場として、多職種連携研修を企画開催しています。今後皆さんのご意見をお聞きしながら、「顔の見える関係」づくりと実践に役立つ研修を企画してまいりますので、ご希望のテーマなどお寄せください。

参加した方からは、「本人の思いを汲み取る難しさを感じたり、人を大切に接していきたいと改めて思った」などの意見が聞かれました。

現在、次回の開催を検討中です。内容が決まり次第ホームページなどでお知らせしますので、ライフドアすわまたは諏訪赤十字訪問看護ステーションまでお問い合わせください。



ゾーニング例

陽性者をまとめる。病室内はレッドゾーン（汚染区域）、病室に面した廊下もレッドゾーンとする。

- 個人防護具を着用するのは、ナースステーション（グリーンゾーン、図中の①）
- 個人防護具を脱ぐのは、レッドゾーン内の廊下、グリーンゾーンに近い場所（図中の②）
- ドアのような境がない廊下を、区切ってゾーニングする場合は、床のテープだけでなく、パーティションなどを設置する。

好評です！出前講座

いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるために私たちが知っておきたい身近なテーマについて、自治会やサロン、高齢者クラブなど、地域の集まりに職員がお伺いして講座を行っています。

会場の手配、参加者の募集などは主催者をお願いしますが、講座の内容や時間など、グループのご希望に応じます。費用は無料ですが、資料代など実費を負担していただく場合があります。

詳しくは、ライフドアすわまで気軽にお問い合わせください。

メニュー例

- 認知症を予防する生活習慣
- 最期まで自分らしくよりよく生きるための知恵（「人生会議」=ACP）
- 上手な医療のかかり方 など

第1回 諏訪赤十字訪問看護ステーション勉強会

看護の質の向上と地域での訪問看護の充実を目的として、5月25日に第1回諏訪赤十字訪問看護ステーション勉強会を開催しました。

ライフドアすわとの共同による初の試みとして、諏訪市内でも訪問看護を行っている宮坂医院さん、訪問看護ステーションみづうみさんに声をかけ、諏訪赤十字病院認知症認定看護師の小松智子先生に「認知症ケア、利用者への対応や家族とのかわり方」と題してオンラインで講演をいただきました。

その人を中心としたケア（パーソン・センタード・ケア）についての説明や、認知症をもつ人を理解する手がかりを、脳の障害・健康状態・生活歴・生活・環境という5つの要素から考察するというお話がありました。また、実際の事例をもとに、具体的な対応方法やご家族との関わり方を教えていただきました。

参加者からは「本人の思いを汲み取る難しさを感じたり、人を大切に接していきたいと改めて思った」などの意見が聞かれました。

現在、次回の開催を検討中です。内容が決まり次第ホームページなどでお知らせしますので、ライフドアすわまたは諏訪赤十字訪問看護ステーションまでお問い合わせください。

第1回 認知症カフェがお

コロナ禍で2年ぶりとなる「認知症カフェがお」は、6月21日午後1時から諏訪市医師会館で開催され、認知症の方を介護しているご家族のほか、諏訪地域認知症疾患医療センター、市包括支援センター、認知症サポーターなど14名が参加しました。

すわっこいきいき体操で体をほぐした後、諏訪地域認知症疾患医療センター看護師によるミニレクチャーとグループに分かれてのミニ座談会では、お互いの身近な話題に花が咲き、終始和やかな雰囲気になりました。

参加したご家族からは、「自宅では孤独。同じように介護をしている方と話ができよかったです。こうした繋がりがあるといい」などといった感想をいただきました。

「認知症カフェ」は、その名のとおり、リラククスできる空間で飲食をしながら集まった人々で交流を深めることができる場として、おしゃべりを楽しむだけでなく介護や医療の専門職に介護にまつわる相談などもできます。

次回は、7月19日（火）、8月23日（火）それぞれ午後1時から。参加費（飲み物代）は100円です。参加ご希望の方は、ライフドアすわまでお問い合わせください。新しい出会いを楽しみにお待ちしております。

いつまでも安心して暮らせるまちづくり

ライフドアすわ 生活支援体制整備事業

ライフドアすわでは、諏訪市福祉協議会と共同して「住み慣れたこの場所で暮らし続けられる」支え合いの地域づくりを進めています。さまざまなサポーターを上手に活用していきいきとした毎日をお過ごしください。

ぴっぴの手

「介護サービスを使うほどではないけど、ちょっとした手助けがあれば」空いている時間に少しのお手伝いならしてみたい「みなさんのそんな想いを社会福祉協議会がマッチングします。

「ぴっぴの手」は、有償ボランティアです。部屋の掃除や洗濯、調理、買い物や通院など外出の付き添い、話し相手、産前産後の家事援助や子どもの見守りなど、さまざまなサポーターをします。「困ったなあ」そんな時はお電話ください。サポーター（協力会員）も随時募集しています。詳しくは社会福祉協議会までお問い合わせください。

【時間と料金】
 ◆利用時間 午前8時〜午後5時
 ◆基本料金 1時間800円
 ◆交通費 往復5km未満100円（5kmを超えるごとに100円増）
 【申し込み・問い合わせ】
 諏訪市社会福祉協議会
 TEL 52-2508

暮らしのお役立ちガイド

高齢者の方向けのサービスや活動に関する情報を紹介する「諏訪市暮らしのお役立ちガイド」を作成しました。諏訪市社会福祉協議会の窓口で配布するほか、ご希望の方には郵送もしていますので、ご利用ください。

令和4年度版 諏訪市暮らしのお役立ちガイド

【在宅医療・介護連携に関する相談窓口】

医療機関や介護保険関連事業所からの困りごと等の相談を受け付けています。また、新情報もお寄せください。